

未来へ向けた「環境哲学」

北京大学学生代表

見学日時：2017年12月5日（火）09:30-11:00

見学場所：ホテルニューオータニ東京

見学概要

12月5日の午前、団員らはホテルニューオータニ東京の見学を行った。同ホテルでの宿泊以降、団員らはこのホテルの規模の大きさや素晴らしいロケーション、優れた環境やサービスに心を打たれており、関連資料を読み終えた団員らは同ホテルの省エネ・環境保全対策についてとても期待していた。

ファシリティーマネジメント課の三浦光昌課長からホテルニューオータニの発展の歩みについて紹介を受けた後、私たちはホテルのエネルギー制御施設、廃水処理施設及びコンポストプラントの見学を行い、三浦課長からは中水の生産プロセスや生ゴミの再生プロセスについて詳しい紹介があった。最後に、団員らはホテルニューオータニの日本庭園を訪れ、和風の造園芸術の魅力を堪能し記念写真を撮った。



見学レポート

ホテルニューオータニは1964年の東京オリンピックの直前に建設され、その後タワーが、さらにガーデンコートや当時東京で最大規模の宴会ホールや日本庭園等が建設され、次第に現在の規模になっていった。

1964年の開業以来、ホテルニューオータニは常に環境保護や循環型経済を積極的に推し進めている。2007年のザ・メイン改修工事終了後、同ホテルの発展は新たな段階に突入り、環境保護と快適さが有機的に結びついた「複合エネルギー型ホテル」の目標へ向け邁進している。

私たちはホテルニューオータニの廃水処理施設を重点的に見学した。廃水処理施設の機能やシステムは整備されており、回収効率は極めて高い。同ホテルでは毎日平均1000トンの厨房廃水が発生するが、それを中水に転化し、ホテル館内のトイレ洗浄水や屋上緑化の一部の散水に利用している。また、飲料水は、厚さ70mmの米ヒバを使用した木製受水槽に溜めて、ヒバの殺菌作用を利用している。

勿論、ホテルニューオータニが工夫を凝らした日本庭園も団員らからは好評であった。ここでは高くそびえるビルが流れる水や青々とした木々や落ち葉などを囲み、そこを歩くと清々しい気分になった。そして枯山水等の要素が適度に融合し、繁華街にあるこの場所に「繁華街において自らを浄化する」といった「境地」を持たせている。ここでは「未来へ向ける」上でも当初の様子を忘れてはいない。



なぜですか？

問:ホテルニューオータニは主にどういった方面において環境努力を行っているのか？

答:具体的にはホテルニューオータニではCO₂排出削減、耐震性強化、屋上の緑化、循環利用等に多くの投資をされており、大きな成果を挙げている。AEMS空調エネルギー管理システムは温度、湿度、風向きの個別化調整を可能にし、快適さと高効率の融合を実現している。温水供給の面では空気熱源ヒートポンプ給湯設備や余熱回収システムを設置し、また機関室の放熱の回収利用により都市のヒートアイランド現象の緩和を図っている。またオール電化厨房システムやAEMSにより更なる省エネや排出削減を実現している。そして2007年のザ・メイン改修後、耐震能力は全面的に強化され、阪神大震災のような大規模な地震にも耐えられるようになってきている。ホテルニューオータニ独自の屋上緑化はその面積の広さだけでなく、景観の美しさと環境保護との融合を実現しており、異なる高さの様々な植物も効果的な断熱の役割を果たしているだけでなく、それら植物の栽培用の水もホテルの廃水処理設備からもたらされている。

問:ホテルニューオータニのコンポストプラントではどのようにコンポストが作られているのか？またどのような優位性があるのか？

答:ホテルニューオータニにおける生ゴミの100%資源化を行うコンポストプラントでの年間のコンポスト生産量は300トンになる。ホテルの生ゴミは分別、攪拌、発酵、混合等のプロセスを通じて堆肥化され、さらに農家が状況により枯葉などを混ぜて使用している。

年間の生産量は特別大きいわけではないが、千葉県90の野菜生産農家及び茨城県の一部のコメ生産農家をカバーしている。ホテルが生産する有機肥料は環境に優しく、この肥料を用いて生産した野菜やコメなどはより確かな安全性を有している。

またホテルの肥料生産量は比較的安定しており、輸入肥料の価格は時折大きく変動することから、「肥料プラント」は農家の利益を大きく保障するものでもある。さらにコンポストプラント内に入れる生ゴミについては厳しい要件があることから、ホテルが提携農家から購入するコメや野菜の一部はこれらの生ゴミの分別を行う従業員への「報奨」となっている。



感想

見学では三浦課長からの解説や李先生の分析を通じて、団員らはホテルニューオータニが受け継いでいる未来へ向けた「環境哲学」について深く理解することができた。この「環境哲学」については、まず初めに高度な社会的責任感や未来志向の戦略に現れており、次いで技術や管理におけるイノベーションに示されていた。ここでは、循環型経済の発展は環境便益と経済効率の完璧な融合を実現している。

ホテルニューオータニが独自で構築した廃水処理システムはホテル内部の水循環における重要な位置を占めている。厨房廃水のトイレ洗浄用水及び緑化灌漑用水への変換過程、特に廃水処理施設の見学の後に日本庭園や宴会ホールなどを訪れ、私たちはより一層「循環利用」理念により再生された水の巨大な力を感じることができた。環境便益と経済効率の融合はこの場において最もよく示されていた。紹介によると、水の再生の項目だけで毎年200万人民元以上の節約になっているとのことで、ホテルの評判の向上がもたらす間接的な収益増については言うまでもない。いわゆる「豊かな自然は金銀ほどの価値がある」であり、環境と経済の相互利益は実現可能であり、また実現しなければならないものである。

今回の見学において私たちがホテルニューオータニを含めた日本企業から感じた非常に際立ったポイントは「社会的責任感」である。技術や管理のイノベーションは企業が発展をする上での原動力であり、高度な社会的責任感企業は未来へ向けた発展をする上での「命綱」であることを知らなければならない。ホテルニューオータニは企業としての社会的責任を非常に重視しているだけでなく、それを基に発展のための戦略や目標を定めている。「遠い将来を見通す」ことで「造作なくできる」ようになるのである。

これから先の世界にはチャンスや課題が共存し、人と自然はどのように共存そして発展をすべきかといった問題については、ホテルニューオータニの未来へ向けた「環境哲学」に関しての更なる研究やその哲学の各地の事情に応じた応用が必要であろう。